

オープンカフェテラス席空間とその店舗の外部環境に関する研究 ～東京都渋谷区・表参道エリアを対象として～

都市空間生成研究室
2041045 片野坂 莉乃

渋谷・表参道 オープンカフェ テラス席
見る-見られる 外部環境 空間分析

1. 研究の背景と目的

日本において、外部環境に接する客席を提供するという性質を持つオープンカフェ（以後 OC と略す）は、公共性を有するという指摘があるものの未だに私的空間に留まっているのが現状である。しかし、都市における OC の効果は一定水準まで認められてきており、最近では「コロナ道路占用特例」や「歩行者利便増進道路制度（ほこみち）」が施行されるなど、公共の場を積極的に利用する動きもあるため、より一層 OC の需要は高まっていくと予想される。そこで本研究は、OC テラス席とその外部環境に着目して、両者の実態を把握すると共に、OC の外部環境との関係性を明らかにする事で、今後のテラス席設計における更なる効果向上のための知見を得る事を目的とする。また対象地は、様々な条件の立地や景観、外部環境が存在する東京都の渋谷区・表参道エリアを選定した。

2. 研究の方法

本研究では、OC テラス席と外部環境の実態について把握した後、OC テラス席と外部環境との関係性という観点から両者を類型化して分析した。

- ① OC テラス席の空間構成要素調査
- ② 外部環境の空間構成要素調査
- ③ 着座時視線方向と構造物・設置物による類型
- ④ 境界デザインと構造物・設置物の装飾性による類型

3. 本研究における OC と対象エリアの概要

3-1. 本研究における OC の定義

本研究における OC 店舗の定義を、1 階にあるカフェ店舗の屋外空間にテーブルやイス等を設置し、食事や休憩が行える空間と定めた。また、席形態については、テーブル・イスの両方あるものやイスのみのものを対象とすると定めた。

3-2. 渋谷・表参道エリアの概要

多様な都市機能を持つことや用途地域の多様性などを考慮して都心 3 区に絞った。更に青柳端恵・堀繁（1996）の研究から東京の代表的な OC の 80%が渋谷区と港区に立

地していたという結果から、最終的に東京都の渋谷区と港区を含むエリアを本研究の対象地とした。

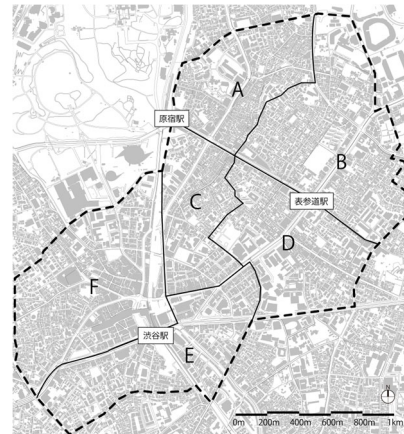


図 1. 対象エリア

4. テラス席と外部環境の実態調査

Google ストリートビューと現地調査を行い、対象エリアから 71 軒のサンプルを抽出した。現地調査で得た写真データなどを基に複数の調査指標を用いて OC テラス席空間とその外部環境がどのような空間構成で成り立っているのかについて把握した。

4-1. OC テラス席空間の空間構成要素

テラス席の席形態や空間規模などのテラス席内部に関することや、境界デザイン（境界立面・境界断面）などの外部環境と接する部分に関する事について、既往研究などを援用しながら、8 個の調査指標を用いて把握した。調査の結果、テラス席が店舗の前面に配置されているものが 94%、着座時の視線方向が前面道路と垂直に交わる席形態が 52%と、外部に開けた席設計が多く、外部環境を見ることが出来るテラス席の環境が整っている傾向があることが明らかになった。

4-2. 外部環境の空間構成要素

OC の店舗と接続する前面道路に関する事と、構造物・設置物に関する事について、既往研究などを援用しながら、11 個の調査指標を用いて把握した。その結果、OC の店舗の 77%が路地に接続しているため、向かい側の

様子を捉えやすい外部環境が整っている傾向にあると考えられる。また、建造物の 68%は壁面のみが見え、建物内の様子がわからず、残りの 32%は建物内の明かりや商品の陳列、人の活動や賑わいなど建物内の様子がわかるものであった。そのため、全体的にみると、OC の店舗の外部環境として、ただ建物が見える場所や無機質な場所が多い傾向にあると考えられる。

5. OC テラス席と外部環境の類型化分析

OC テラス席空間と外部環境との関係性はあるべきという本研究の問題意識から、OC テラス席と外部環境の空間的なつながりについて、「外に開けた積極性のある設計/内に閉じた積極性のない設計」「パフォーマンス性のある外部環境/パフォーマンス性のない外部環境」と評価軸を設定し分類した。また、第3章で示した調査指標とデータを用いて、両者の関係性を2段階に分けて把握した。

5-1. 着座時視線方向と建造物・設置物による類型

第3章のデータより、テラス席設計については「着座時視線方向」、外部環境については「建物内の様子」「緑視率」の項目を取り上げて評価軸を基に分類したところ、I～IVの4つのゾーン(図2)に分けられることが明らかになった。パフォーマンス性のない外部環境に対して、外に開けた設計がされている「IVテラス席設計の優位性」と、パフォーマンス性のある外部環境に対して、外に開けた設計がされている「I相互的な関係性」が比較的多いことが分かった。また、パフォーマンス性のある外部環境に対して、内に閉じた設計がされている「II外部環境の優位性」とパフォーマンス性のない外部環境に対して、内に閉じた設計がされている「III断絶的な関係性」のケースは比較的小さいことが分かった。さらに詳細な関係性の把握を次のパートで行う。

5-2. 境界デザインと建造物・設置物の装飾性による類型

第3章のデータより、テラス席設計については「境界デザイン」、外部環境については「外部環境の装飾性」を取り上げ、評価軸を用いて更にI～IVの各象限を分類したところ、①～⑦の7つの型(図2)に分類できることが明らかになった。その中でも特に「①一体型」は、パフォーマンス性のある外部環境に対して、最もクリアな形で前面道路に接続し、外に開け設計となっているため、外部環境を考慮したうえで空間的なつながりもあるという一体的な席設計になっていることがわかった(図3)。一方で「⑥アンバランス型」は、パフォーマンス性のない外部環境であるのに、最もクリアな形で前面道路に接続し、外に開けた設計となっているため、外部環境を考慮でき

ていないが空間的なつながりだけはあるというアンバランスな席設計になっていることがわかった(図3)。

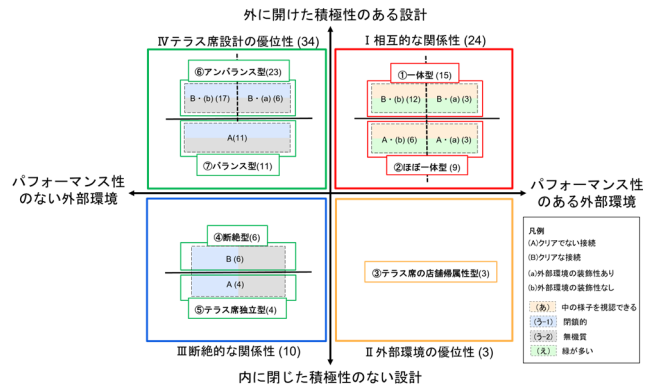


図2. OC テラス席と外部環境の類型

※ () 内の数字は該当軒数を表す

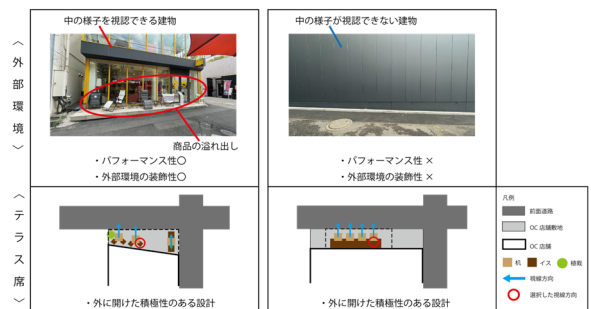


図3. ①(左)と⑥(右)のテラス席と外部環境の例

6. 結論

OC テラス席空間と外部環境の関係性という観点から調査・分析し、最終的に7つの型に分類されるという事が明らかになった。対象エリアにおいて、外部環境のパフォーマンス性の有無は考慮せずに、外部との空間的なつながりのみをテラス席の視線方向や境界デザインによって、コントロールするもの(②③④⑥)と、外部環境のパフォーマンス性の有無を考慮したうえで、外部との空間的なつながりもコントロールするもの(①⑤⑦)があることが分かった。そのため、外部環境を考慮するという事や、外部との空間的なつながりをコントロールする事が、OCの外部環境との関係性に影響すると思われる。

今後テラス席の計画・設計を行う際に、外部環境との関係性を重要視していくことで、テラス席屋外空間の魅力や効果がより向上していくことが期待される。

参考文献

- 1) 青柳端恵・堀繁(1996年)「東京におけるオープンカフェの立地とデザインに関する研究」、『都市計画論文集』、31巻、pp.223-228、公益社団法人日本都市計画学会
- 2) 高橋憲太郎・山本清龍(2023年)、「オープンカフェ等の開放性の高い飲食店と街路が構成する空間の特性と志向性」、『ランドスケープ研究』、86巻、pp.591-594、公益社団法人日本造園学会